

米国最大の犯罪抑止イベント「National Night Out」を視察

米国では、毎年8月に National Night Out（以下「NNO」という。）というイベントを開催し、犯罪抑止に向けた気運の醸成に努めています。今回、ニューヨーク市内で開催されたNNOを視察する機会がありましたので、その概要等についてお伝えします。

1 米国全土で行われている犯罪抑止の一大イベント

NNOとは、犯罪抑止活動の一環として、毎年、全米の各地域単位で行われているイベントです。1984年に“America’s Night Out Against Crime”という名称で始まったこのイベントは、地元警察と地域住民が直接触れ合うことで、双方の交流や情報交換を促進することを目的としています。

また、警察と住民が一体となって犯罪抑止活動に取り組んでいる姿をアピールすることや、子供達に地元警察への親しみを感じてもらうことで、将来の非行防止を図るといった狙いも含まれています。

NNOは毎年8月の第一火曜日に行われます。これは、記念すべき第1回目が1984年8月7日火曜日に行われたことに由来しているからです。

第1回目のNNOには、合計23州に跨る約400の地域が参加し、参加者は250万人以上に上ったそうです。その後、米国全土へと輪が広がっていき、現在では、50ある全ての州及びワシントンDC並びに海外領土において、約3,800万人もの人々が、毎年いずれかのNNOに参加しています¹。

2 ニューヨーク市のNNOはNYPDが主導

ニューヨーク市では、ニューヨーク市警察（以下「NYPD」という。）の各分署が中心となってNNOを開催しています。

私は、本年（2014年）8月5日の火曜日に、ニューヨーク市ブルックリン区にある62分署が主催するNNOに参加してみました。同署の管内は、ニューヨーク市の中では比較的裕福な家庭が多いと言われている地域です。62分署でのNNOは、午後6時から午後9時までの間、同署庁舎周辺の道路を会場とする形で開催されていました。

私が午後6時過ぎに分署前に着くと、既に多数の地域住民で溢れ返っており、会場内に立ち並ぶ露店の前には、ハンバーガーやホットドッグといった食事を求める参加者が長蛇の列を作っていました。また、子供が中で飛び跳ねたりして楽しむ「エア遊具」も3つ設置されており、幼稚園から小学生くらいの子供たちが元気に遊んでいました。もちろん、こうした露店で配られる食事や遊具は、全て無料で提供（開放）されています。

会場の中心部には、NYPDやニューヨーク市の緊急事態管理室（Office of Emergency Management (OEM)）といった公的機関のほか、地域の弁護士事務所、銀行といった各種法人や、この地域を拠点とする州議会議員などがカウンターを構え、参加者にパンフレッ

¹ テキサス州については気候の影響により毎年10月の第1火曜日に行われています。

トや記念品を配布していました。

参加者の数がピークを迎えた午後7時頃になると、分署の入口前において、隣の人声が聞こえないほど大音量の音楽が流れる中、同署の警察官による催しが始まりました。左下の写真は、目隠しをした警察官が、別の警察官が手にしている箱を棒で叩き割る度に、中から飴やチョコレートなどのお菓子が飛散し、それを近くで見ている子供や親がかき集めるといった催しの様子です。

午後8時ころになると、多くの露店が閉まり始めたこともあって、会場内からは徐々に参加者が減って行き、午後9時をもって終了となりました。



住民と一緒に楽しむNYPD警察官（左）と露店に並ぶ参加者たち（右）



会場内にカウンターを並べるNYPDの職員採用部局（左）と弁護士事務所（右）

3 その他の分署でも

この日は、当事務所のアメリカ人スタッフの一人も、地元クイーンズ区 Flushing のNNOに参加しています。同スタッフが参加した 109 分署のNNOでは、公立小学校の校庭が会場として利用されました。

そのスタッフは、普段から所属しているコミュニティ緊急事態対応チーム（Community Emergency Response Team、以下「CERT」という。）の一員として参加しており、カウンターを訪れた人々に対して、災害対策やCERTの活動に関する資料について説明しな

から、PR用の飴、ペン、バッグなどを配布したそうです。その際、カウンターに英語で書かれた資料のほか、地域性を考慮して、スペイン語、中国語、韓国語で書かれた資料も用意していたところ、ある参加者から「ウルドゥー語の資料はないか」と聞かれる一幕もあったそうです。人種のるつぼと言われるニューヨークならではのエピソードと言えるでしょう。

会場内には、私が参加した 62 分署の NNO と同様に、ハンバーガーやホットドックを無料で配る露店やエア遊具が設置され、この地域を基盤とする政治家や、米国では大手民間企業として知られている Target Corporation などカウンターを構えていたそうです。

催し物としては、フェイスペイントやタトゥーシールを体験できるコーナーのほか、中国の太鼓による演奏、獅子舞踊り、ペルーダンスといった地域性を加味したパフォーマンスが行われ、会場内は大いに盛り上がったそうです。



109 分署における NNO の様子 (左) と CERT が配布した多言語の資料 (右)

3 夏の風物詩のごとく

NNO の最大の特徴は、州・市・郡といった地域単位に分かれて設置されている警察組織が、ボランティア団体や NPO 法人又は民間企業などと連携の上、同じ日に同じ目的のイベントを、米国全土にまたがる形で一斉に開催しているという点です。

米国では職員数が 100 人にも満たない警察組織も数多くあり、そういった組織にとっては、単独で大きなイベントを企画するには限界があります。しかしながら、NNO のようなスタイルがあれば、小さな警察組織であっても、例えるならパズルの 1 ピースのようなイメージで、国家的規模の一大イベントに加わることが出来ます。

また、イベントの開催方法についても、犯罪抑止活動という基本方針さえ踏まえていれば、あとは各主催者のセンスに委ねられているため、地域の実情に即したイベントに色付けすることが可能となっています。

今回、実際に足を運んでみて、老若男女を問わず多くの地域住民が夏の風物詩のごとく NNO を楽しんでいる姿がとても印象的でした。

NNO は単なる犯罪抑止のためのイベントという枠を超え、米国の伝統行事の一つになりつつあるのかもしれませんが。

(松重所長補佐 警視庁派遣)